

2013. 2. 25 発行

みなさん、こんにちは。SSH です。試験はどうですか。毎日追い込みですね。

3年生は、もうすぐ「卒業」ですね。おめでとうございます。あつという間の3年間だったと思いますが、これからも元気で活躍してくださいね。母校をこれからも末永く応援していただけると嬉しいです。

先日2月14日には、初めてのSSH研究発表に生徒たちは取り組みました。

「SSH 研究成果発表会」

です。ポスター発表という形で発表したのは、グループ研究という活動をしていた文理科1年生と自然科学部の生徒たち(51名)です。発表数は、18研究……。他校の先生や研究者の方々も混じっていただいて、大変盛り上がりました。というか、発表者も参加者もみなさんが、なんだか「生き生き」していて「目が輝いている」感じがして、素直に喜んでいました。「Good Job」シールも使わせていただき、コメントが残るように工夫しましたがいかがでしたか……。自分の発表の評価がすぐにフィードバックされる……。それもまた嬉しいものです。

参加者として、2年生の文理科、普通科理系の生徒さん、3年生で理系に進学が内定している生徒のみなさんに加わってもらいました。そこ、かしこで、発表だけでなく、質問や回答……。中にはバトルに近い「ディスカッション」が行われている場面もありました。こういう活動を通じて新しい学びを知ってもらい主体的な行動ができるようになることを、いきものがたりは、節に期待しておりますよ(^)

【参加した生徒の声】

・初めて参加させて頂きました。想像以上のレベルの高さに驚きました。どの班も仮説を立て、実験しデータに対して考察をされていて、3年生にとっても勉強になりました。これからSSHが続き蕪高がますます良くなることを願っています。(3年6組 山田菜央)

・発表する側と聞く側の2つの視点から参加しました。どの発表も目の付け所がよく、興味がわきました。5組や6組の友達が発表を聞いてくれ、応援の言葉をかけてくれたことがとても嬉しかったです。これからも頑張ってSSHの研究を進めていきたいと強く思いました。(2年5組 進藤僚亮)

・題名を聞いたときには、なんだこれと思っていたが、実際に発表を聞いてみると「なるほど」と思える内容のものばかりであり、感心した。もしこのような機会があれば、自分も発表してみたいと思った。

(2年6組 宮内信太郎)

・会場が活気に包まれていることに驚いた。どのグループも生き生きと発表していて、見てみたいと思った。発表内容である、仮説、実験、結果、考察どれもが筋道が通っていて、とてもよく理解できた。器具や材料を見せてくれたり、質問にも笑顔で答えていて、積極的な姿勢にこちらも楽しかった。

私たちは3月にポスターセッションを控えているが、その素晴らしいお手本になった。

(2年7組 依田あずさ)

これ以外にも多くの生徒から「参加してよかった」という感想を戴きました。ありがとうございます。

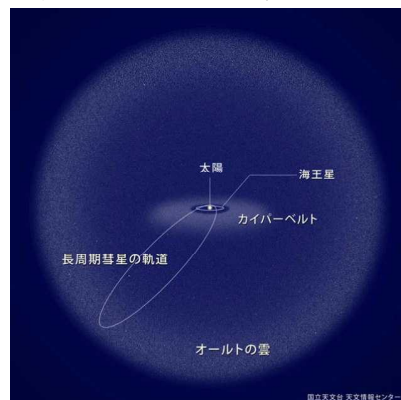
さて、SSHだよりは先生と生徒をつなぐ役目があります。今回は、地学の小林稔先生に原稿を寄せていただきました。先日の隕石衝突……は、「すごい威力」でしたね。その件については、また後日科学

的に語ってみたいと思います。とりあえず、3月4月は夜空を見上げてみると、見事な天体現象に出会えますよ (^_^) というメッセージです。みなさん試験明けに「彗星」にフォーカスしてみてください。

3～4月はパンスターズ彗星を見よう (国立天文台 web ページより)

①パンスターズ彗星とは

パンスターズ彗星 (C/2011 L4 (PANSTARRS)) は、2011年6月6日(世界時)に、ハワイ州・マウイ島のハレアカラに設置されたパンスターズ1望遠鏡による観測で発見されました。発見時は、さそり座方向にあり、木星の軌道よりも遠い位置でした。太陽から1光年離れた、太陽系外縁天体(オールの雲)から飛来したものとされます。



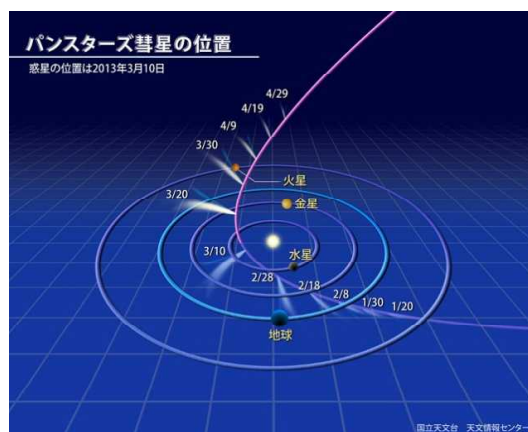
②パンスターズ彗星の特徴

・非周期彗星

パンスターズ彗星の軌道は、惑星の重力の影響により、現在は放物線となっておりハレー彗星のように再び戻ってくることはありません。

・太陽に最も近づくのは2013年3月10日(日本時間)

太陽からの距離は約4500万キロメートル
地球からの距離は1億6600万キロメートル



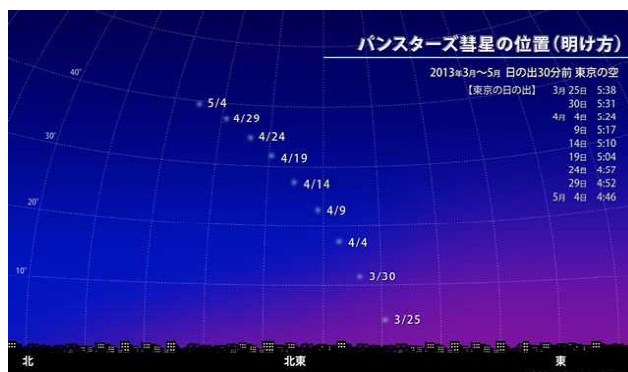
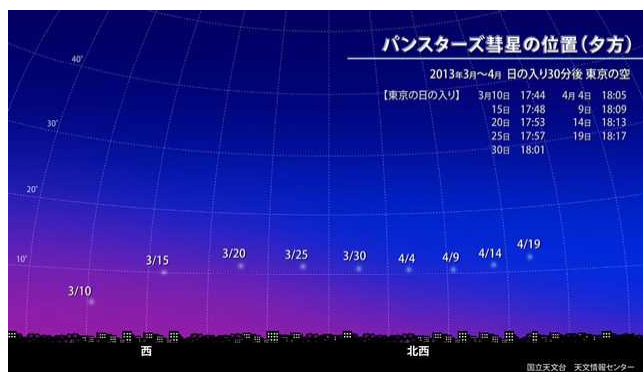
③彗星がよく見える日と時間帯は

日本でパンスターズ彗星が観察しやすくなるのは、**3月10日以降**、日の入り後の西の空に見られるようになります。

3月下旬から4月上旬は、日の入り後の西の空、日の出前の東の空と、1日に2回見るできるようになります。ただし、いずれにしても太陽から見かけ上あまり大きく離れることがないため、きわめて低空でしか見ることができず、観察条件はよいとは言えません。

4月5日には、アンドロメダ座のM31(アンドロメダ銀河)に近づき、双眼鏡で同じ視野に入ります。ただし、夕方、明け方のいずれの場合も薄明中であるため、彗星、M31ともに確認が難しいかもしれません。

4月後半以降は、カシオペア座の中で一晩中沈むことがない周極星となりますが、近日点通過直後の頃のような明るさは期待できないでしょう。



12月にはもう一つの大きな彗星「アイソン彗星」がやってきます。こちらも期待しましょう。